

1-1-1 V01:簡易的な手法による指標種の回復量調査

【長距離ライン/森林植生】

参考資料1 p.2~5 卷末資料

- ・知床岬地区 増加傾向…オシダ(優)、エンレイソウ類(消)、ツクバネソウ類(消)
減少傾向…エゾイラクサ(優)、サラシナショウマ(嗜)、チシマアザミ(嗜)、オオウバユリ(嗜)
増減反復…クルマユリ(嗜)
- ・幌別地区 増加傾向…なし
減少傾向…エゾイラクサ(優)、ツクバネソウ類(消)
増減反復…マイヅルソウ(優)、サラシナショウマ(嗜)、チシマアザミ(嗜)、エンレイソウ類(消)

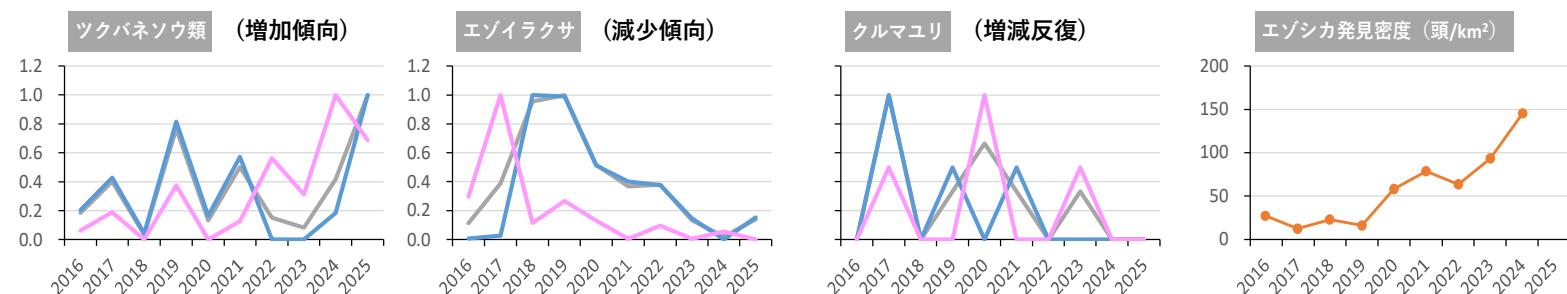


図1 森林長距離ラインの指標種の株数相対値の経年推移の例（知床岬地区）

—■—開花 —■—非開花 —■—開花+非開花

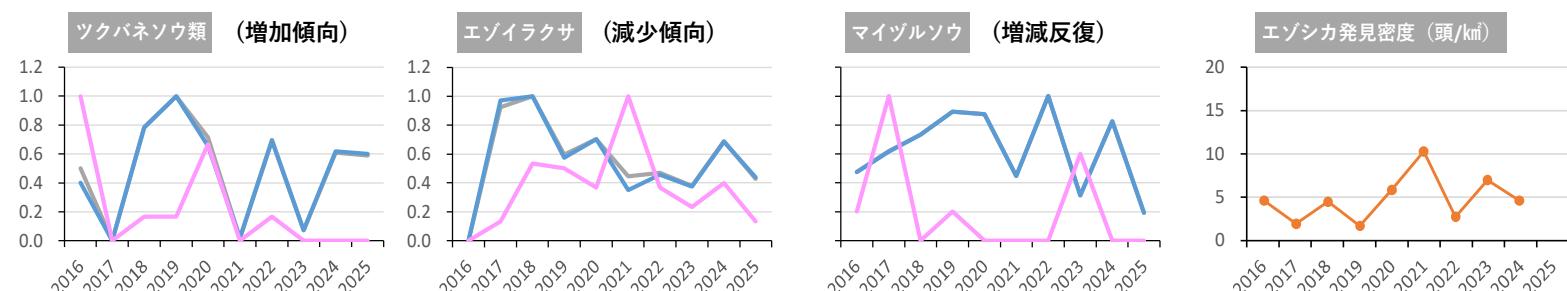


図2 森林長距離ラインの指標種の株数相対値の経年推移の例（幌別地区）

—■—開花 —■—非開花 —■—開花+非開花

1－1－1 V01:簡易的な手法による指標種の回復量調査

【長距離ライン/草原植生】

☞ 参考資料1 p.2~3、6~7 ☞ 卷末資料

- ・知床岬地区 増加傾向…オオヨモギ(優)、エゾノヨロイグサ(嗜)、エゾノカワラナデシコ(消)等
減少傾向…シレトコトリカブト(嗜)、チシマアザミ(嗜)、ハナイカリ(消)
増減反復…ヤマブキショウマ(嗜)、チシマワレモコウ(嗜)、エゾフウロ(消)等
- ・幌別地区 増加傾向…なし
減少傾向…マルバトウキ(嗜)、ハナイカリ(消)、ナンテンハギ(消)、エゾカワラナデシコ(消)
増減反復…オオヨモギ(優)、チシマワレモコウ(嗜)、エゾフウロ(消)、オドリコソウ(消)

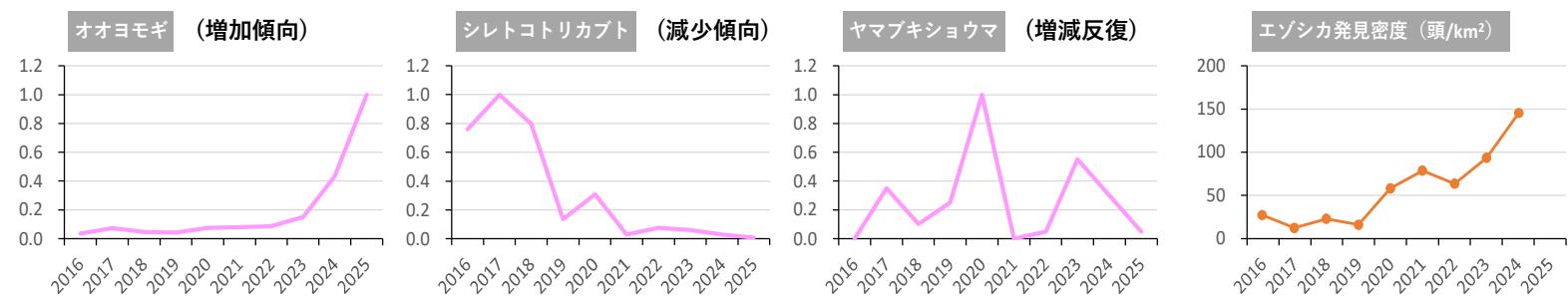


図3 草原長距離ラインの指標種の株数相対値の経年推移の例（知床岬地区）

—— 開花

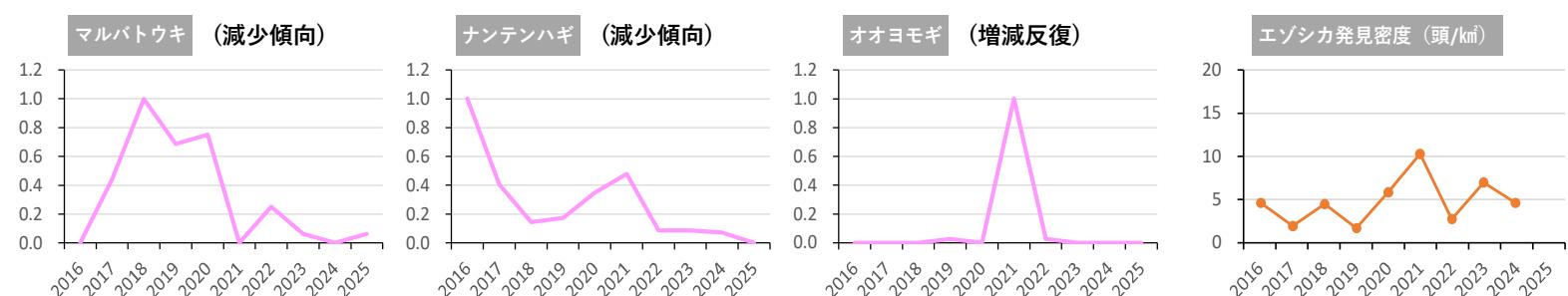


図4 草原長距離ラインの指標種の株数相対値の経年推移の例（幌別地区）

—— 開花

1-1-2 V03:植生影響調査

【幌別地区フレペの滝草原植生】

☞ 参考資料1 p.10~11

- ・経年的にオオウシノケグサ、ワラビ、ナミキソウが優占。
- ・平均植被率は95%以上を推移。
- ・ワラビが2020年に減少、ナミキソウとコヌカグサは増加。

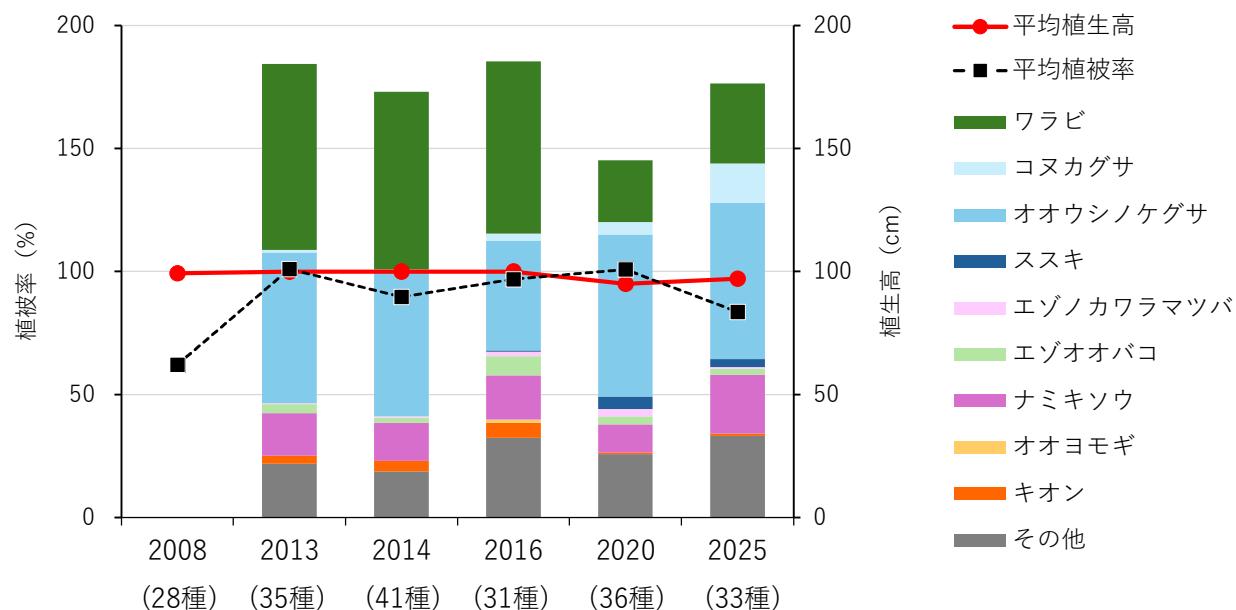
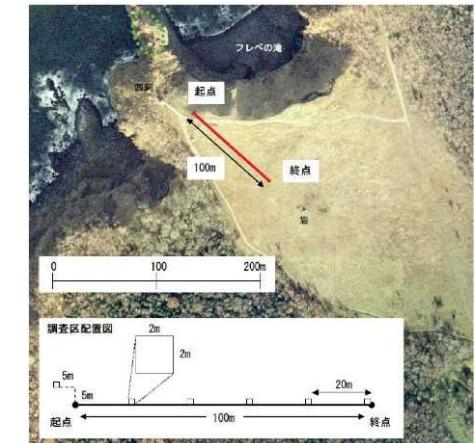


図5 幌別地区フレペの滝草原植生の植被率、植生高の経年推移

※2008年は各種優占度で記録されているため植被率図示対象外



各方面形区の状況

1-1-3 V09:植生影響調査(海岸植生)

【ルシャ地区海岸植生(ルシャ川河口)】

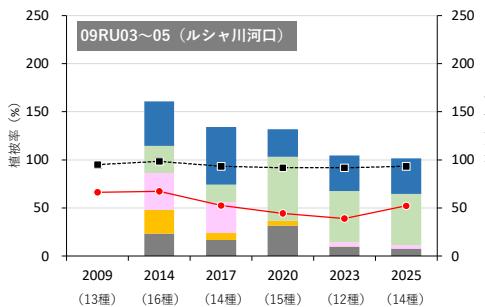
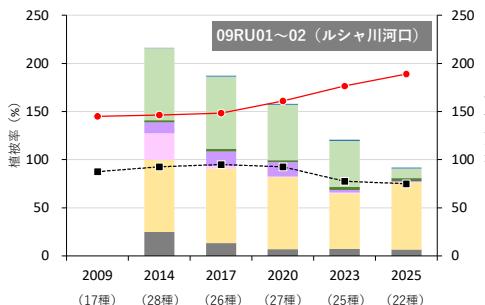
☞ 参考資料1 p.12~13

・09RU01~02

ハンゴンソウとナガハグサが優占。
ナガハグサが年々減少。

・09RU03~05

ナガハグサとコヌカグサが優占。
ナミキソウやエゾオグルマが減少。



【ルシャ地区海岸植生(ポンベツ川河口)】

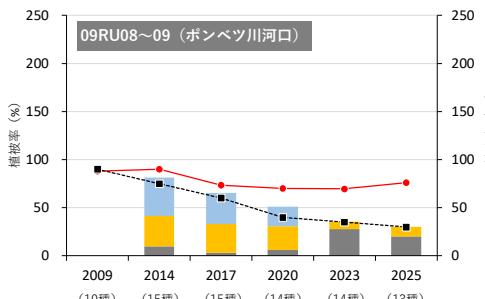
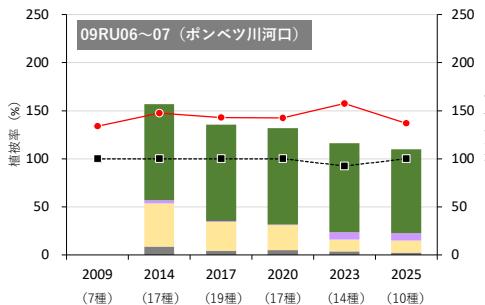
☞ 参考資料1 p.12、14

・09RU06~07

クマイザサとハンゴンソウが優占。
ハンゴンソウ減少傾向。

・09RU08~09

クサヨシとエゾオグルマが優占。
2023年以降は優占種なし。
クサヨシとエゾオグルマが減少。



※2009年は各種優占度で記録されているため植被率図示対象外

1-1-4 V10:植生影響調査(高山植生)

【知床沼地区高山植生】

☞ 参考資料1 p.15~17

・SN1(知床沼 上の沼)

チングルマとミカヅキグサが優占。
平均植被率は2020年以降減少傾向。
チングルマとミネハリイが減少。

・SN2(知床沼 下の沼)

チングルマとミネハリイが優占。
平均植被率は2020年に微減。
ヒメスゲとチシマワレモコウが減少。

・SN4(イワイチョウ湿原)

ワタスゲ、チシマザサ、イワイチョウが優占。
平均植被率は微減傾向。
チングルマが減少。

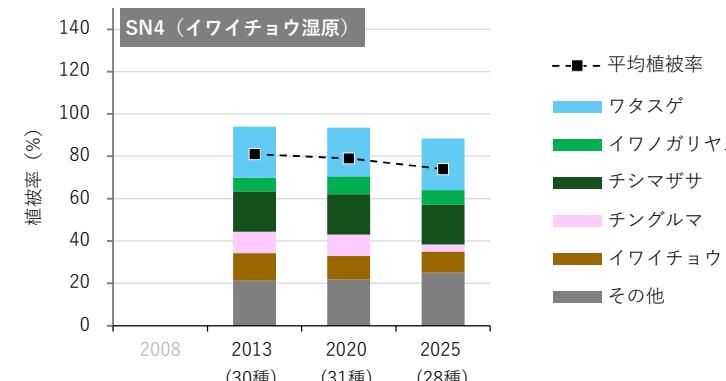
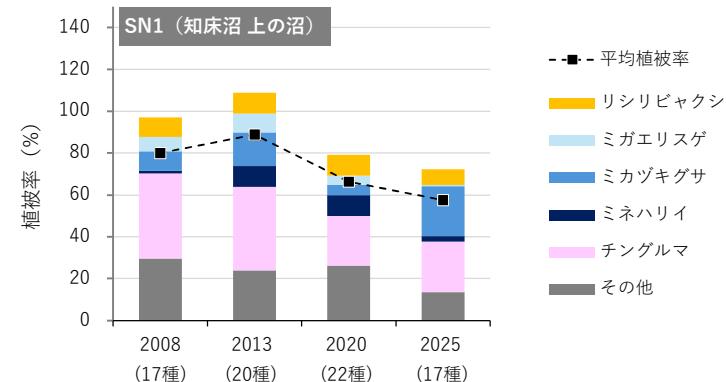


図6 知床沼地区高山植生の植被率の経年推移
(上:SN1、中:SN2、下:SN4)

※SN4は2008年は調査未実施

1-1-4 V10:植生影響調査(高山植生)

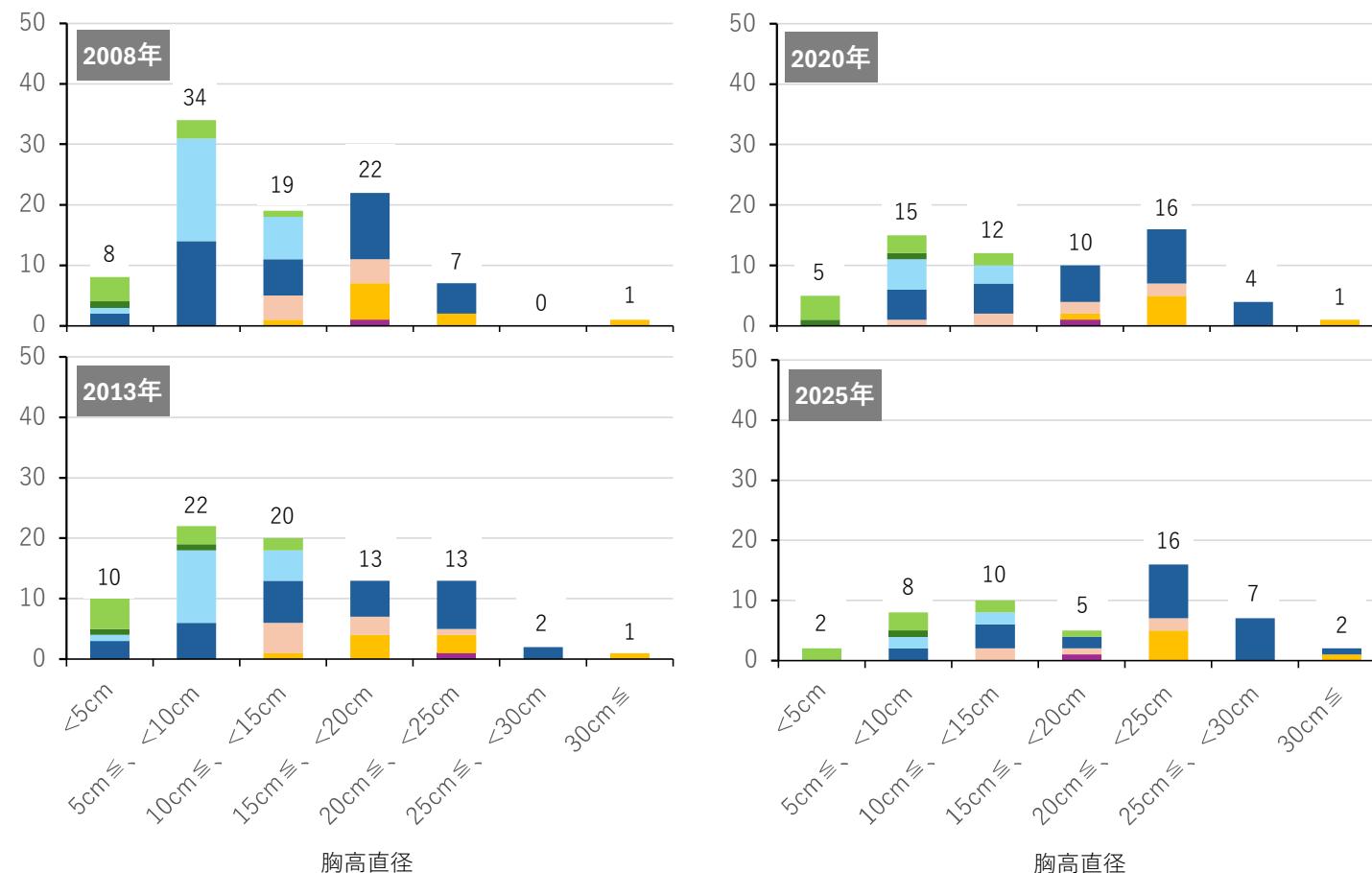
【知床沼地区森林植生】

参考資料1 p.19

・R12-H1(知床岳中腹青沼周辺)

木本数は全体的に減少。

DBH5cm未満の新規加入は2013年に4本のみ。これらの2025年までの生残率は41.7%。



- トドマツ (As)
- エゾマツ (Pj)
- ミヤマハンノキ (Am)
- ダケカンバ (Be)
- バッコヤナギ (Sb)
- オノエヤナギ (Ss)
- イタヤカエデ (Ac)



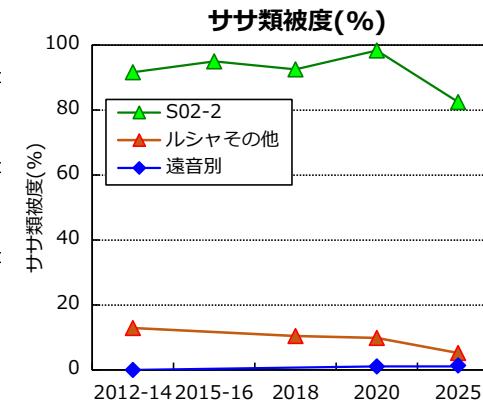
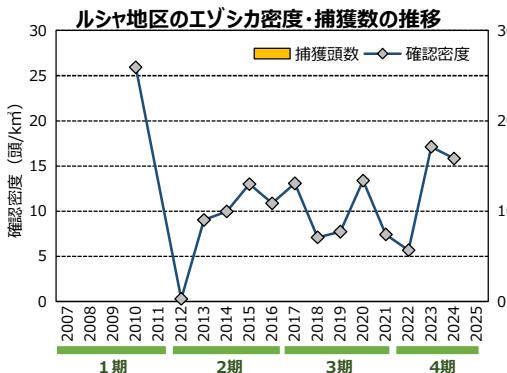
R12-H1

図6 知床沼地区森林植生における木本の胸高直径別ヒストグラム

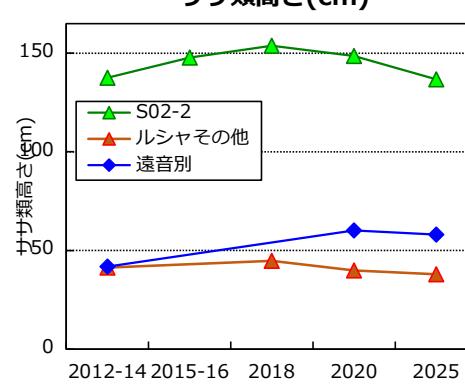
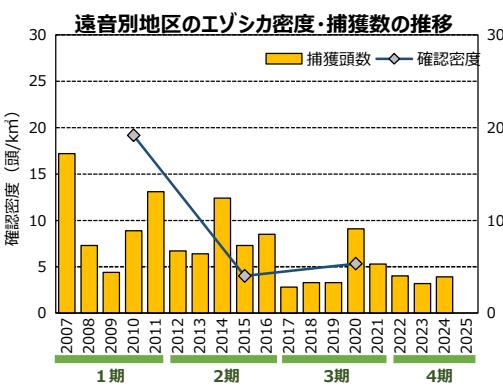
1-2-1 ルシャ地区・遠音別地区における植生影響調査(森林植生)

- ルシャ地区(6区)および遠音別地区(4区)で毎木調査・林床植生調査を実施した。
- ルシャ地区は個体数調整地の対照地としての位置づけで捕獲は実施されておらず、エゾシカの高密度状態が維持されている。遠音別地区は強い採食圧を受けて被度が低下していたが、10年前からエゾシカ密度が低下し、植生の回復傾向が見られている。
- ササ被度はルシャ地区では1地区(S02-2)で82%と高かったが、それ以外の調査区では20%未満で推移してきており、やや低下傾向にあった。遠音別地区ではササ類はほとんどないが、わずかに増加する傾向がある。

【参考資料2p.3~4】



S02-2の林床

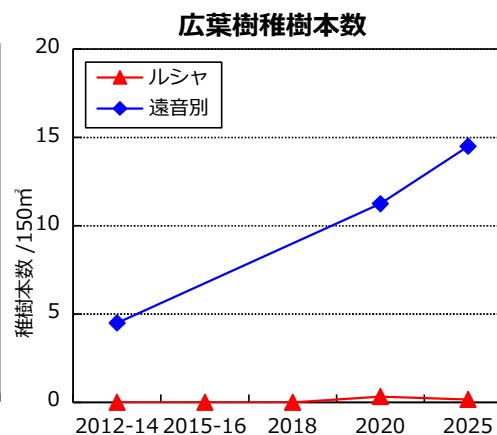
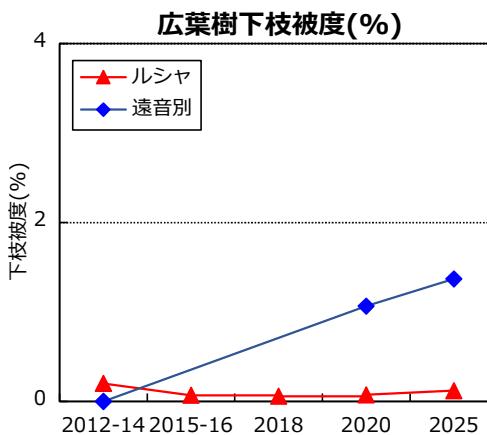


S08-1の林床

ササ類被度・高さの推移

1-2-1 ルシャ地区・遠音別地区における植生影響調査(森林植生)

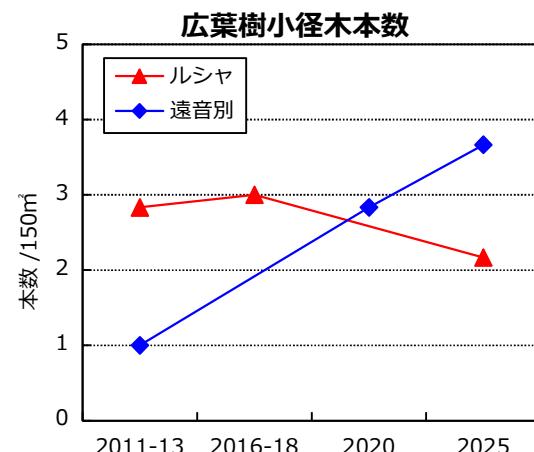
- ルシャ地区では広葉樹の下枝や稚樹はほとんど見られないまま推移をしている。
- 遠音別地区では回復傾向にあり、2025年度においてもほとんどの調査区において増加していた。遠音別地区では毎木調査で確認される広葉樹小径木の本数も増加傾向にあった。
- 林床の嗜好種はS08-1ではこれまでと同様に比較的多くが確認された。
- 各調査区の土壤流出状況については、これまで同様ほとんど流出は見られなかった。 【参考資料2 p.3~4】



S08-4のシウリザクラ稚樹



S08-3のキタコブシ萌芽



S08-1の嗜好種エンレイソウ類



S08-1の嗜好種チシマアザミ